

## 本校におけるセキュリティポリシーの作成の現状とこれから

愛知県立日進高等学校 教諭 渡邊 和雄

kcm-adm@nisshin-h.aichi-c.ed.jp

キーワード：高校、セキュリティポリシー、手順書

### 1. はじめに

本発表は、平成18年度愛知県立高等学校セキュリティ対策委員会の依頼を受けて、愛知県立高等学校に新規に整備される端末、各学校にすでに整備されている端末、教職員が個人的に校内で使用している端末に関わるセキュリティポリシーを作成するにあたって、愛知県立日進高等学校でどのような問題が生じ、今後の展望について述べるものである。

### 2. 本校について

#### 2. 1 本校の紹介

愛知県立日進高等学校は、全日制普通科で各学年100名余り合計でも300名余りの学校である。教員は専任教職員が40名余りであり、多くの授業で小人数教育を取り入れている。ここ数年ICT教育に力を入れており、多くの生徒が3年間で6単位の情報系の授業を受け、ワープロ、表計算、Webページ作成、プレゼンテーション、JAVA言語によるゲーム作成などを習得している。教科情報の教員は専任3名と非常勤1名で行っている。また、全ての教室にパーソナルコンピュータを設置し校内LANを利用して、さまざまな連絡事項を共有するようにしている。

#### 2. 2 本校のコンピューター使用状況

本校は、情報教育に力を入れているために学校全体にあるコンピューターの台数は職員用のものが13台、生徒用には教科情報用のものが32台、国際コミュニケーション（LL等兼用）用が20台、教室用に16台ある。それぞれのコンピューターサーバーを設置してファイルを共有管理している。また、個人所有のコンピューターを持ち込んで校務のために利用している職員もいる。従って多くの職員はワープロソフト、表計算ソフト、データベースソフトを利用することができる。しかし、OSであるウィンドウズの基本的な設定が必ずしもできるわけではないので、ネットワークへの接続設定は教科情報の職員が手分けして行っている。教室用に設置しているコンピューターの基本的な設定も同様に教科情報職員が手分けして行っているのが実情である。

### 3. セキュリティポリシー作成

#### 3. 1 セキュリティポリシー作成依頼学校

新規に愛知県立高等学校にセキュリティポリシーを作成するために県立学校の意見・実態を聞くために以下の3校が選ばれた。本校は普通科校の代表として選ばれたようであり、他の学校は実業科校、特殊学校として選出されたようである。

愛知県立知立高等学校（全日制商業科）

愛知県立日進高等学校（全日制普通科）

愛知県立豊橋養護学校（養護学校）

#### 3. 2 日進高等学校での組織

日進高等学校で今回のセキュリティポリシー作成に関与したのは、ICT教育活用委員会である。この委員会には各校内分掌より委員を選出され、校長、教頭、教務主任と教務からコンピューター実務者2名が加わり、教務主任を座長として運営されている組織である。元々は先に述べたように本校では情報教育を盛んにするためにどのようなことを行えばよいのか、あるいは公務を行ううえでのコンピューターの有効活用をどのように推進すればよいのかをそれぞれの立場で思案する委員会であったが、今回の件をきっかけにセキュリティの必要性にも力点を置いた意見交換としての場の役割も行ってもらったことになった。

#### 3. 3 作成の進行

基本的には教育委員会からの依頼を受けた件について、私が職員に依頼して調査・回答していただき、それをまとめて教育委員会に報告するという方法を採用していった。中には私個人が作成したも私案に、それぞれの立場からの意見をつけてもらいそれを修正した形で報告していったものもある。以下にその内容を示す。

- ・情報の洗い出しを全職員対象に行った。約3週間で行うことができた。対象としては全職員にお願いした。
- ・情報の脅威のレベルはこの分掌で判断してもらった。
- ・対策については私個人が思案して決定していった。
- ・これらを元に校内のセキュリティポリシーを作成した。

- ・各校のセキュリティポリシーを元に愛知県立学校で用いるセキュリティポリシーの試案が作られたのでＩＣＴ委員会の委員と協議し、その問題点と疑問点を教育委員会に報告した。
- ・各校からあがった疑問点と問題点を修正したセキュリティポリシーを教育委員会が作成すると同時に、各校でこのポリシーを実施運営するに必要な手引書を私個人の私案として作成しＩＣＴ委員会で審議し修正したものを教育委員会に報告した。尚、現在まだ継続してセキュリティポリシーを作成している。

#### 4. 問題点

##### 4. 1 セキュリティポリシー作成進行の問題点

作成過程における問題点には、以下のようなことがあった。

- ・情報の洗い出しを全職員対象に行ったが、現実的には分掌主任を中心として一部の職員が参加・回答したという形になってしまった。
- ・情報の脅威のレベルはこの分掌で判断してもらったため、学校全体としての考えを統一することができなかった。
- ・対策については個人的には統一感を持って決定することができたとは思いますが、それが正しいかどうかは審議されていない。
- ・校内のセキュリティポリシーを作成したが、情報を扱うための内規として作成されたのが現状である。今回は電子媒体に特化して作られたためすべての事象を含んでいるわけではなかった。
- ・愛知県立学校で用いるセキュリティポリシーの試案についてＩＣＴ委員会の委員と協議したが、細かな意図が伝わらなかった。
- ・手引書をＩＣＴ委員会で審議したが、細かな意図が伝わらなかった。また、従来から不便に感じる部分についての若干の不満があった。

##### 4. 2 その他の問題点

実際に今回の作業を行うに当たって問題となるものの多くは時間と個人の情報セキュリティに関する考え方であると私は思った。時間に関しては何でもそうであろうが、ゼロからセキュリティポリシーを作成するには相当の時間を要するはずだ。個人的な意見ではあるが最短でも半年はかかるのではないだろうか。今回の作成では職員間における細かな共通理解を省いて作成したために速く作成することができたが、本来であればじっくり行うのいいであろう。もう一つの問題の考え方はもっと多くのことを含んでいると私は思う。コンピューターを公務等で使う理由は利便性の向上がほとんどであろうと推察されるがセキュリティを考えるとということは、この利便性を一部犠牲にすることにつながる。本校では今現在までセキュリティに関してそれなりに配慮した形でネットワークを作成し利用してきたが、今回の県全体で作られてくるセキュリティポリシーを遵守するためには、現在より厳密な認証等が必要となり一部の利便性、特に即視性を失うことになる。これに対しての考えを共通化するためには校長、教頭による強い指導がある意味必要と思われる。また、個人情報などの重要機密事項を含んだファイルの管理方法にも細心の注意が必要となってくるので、持ち出しの考え方をしっかり把握させる必要がある。この辺りはモラルという言葉で簡単に説明できることではあるが、遵守させることは簡単ではないと思われるので先に述べた時間とは別に多くの時間を割いて理解して行動してもらう必要があると私は考える。

もう一つ切実な問題がある。それは人間的な保証である。たぶん他の都道府県でも似たようなことが起きていると推察されるが、現在愛知県では校内のネットワークの管理を教員が行っている。財政的な事が絡んでいるので一概に言うことはできないが、できれば専門的な業者などを管理者とすることが望まれる。なぜならこの職を担っている職員には必ずしもコンピューターに精通しているわけではないものが含まれていると同時に、たとえ精通しているとしても、これらの業務が各学校で校内の公務として認識されていない場合もあり過度の負担を強いている可能性があるからだ。愛知県では予算的な見地から専門業者を配置することは難しいと考えて、来年度からは校長会、教頭会等を通じて公務との認識を強く持つてもらうことを働きかける予定である。

#### 5. これから

今回、愛知県のテストケースとしてセキュリティポリシーを作成したわけだが、来年度からは本格的に作成運用となっていく。時間を多く費やすことが職員の理解を得ることにつながり、最終的には良いセキュリティポリシー作成することになると私は思う。今後は教育委員会と協力してより容易に作成運用ができるマニュアルのような手引書や実務を行う職員の負担を軽減するために共通で用いるウィンドウズの設定手順書を作成していく予定である。